

視点5 多様な機関の連携、協力による食育運動の推進

重点項目：食育運動の推進



食育運動・食育ボランティアの状況

食育に関心がある人の割合 (アンケート結果より)

国の現状値 (H19)	町の現状値 (H19)
69.5%	67.4% (男性57.7%・女性76.2%)

全体的にみても、「関心がある」・「どちらかといえば関心がある」と答えた人が67.4%であり、年代別で見ると、関心がある割合が最も多いのが50代で70.5%、ついで60代で68.3%、40代66%、30代65%となっている。

また、男女で比べると、男性57.7%、女性76.2%と女性の関心が高く、年代別にみると、50代女性81.1%、60代女性76.8%、40代女性75.7%である。

「食育」という言葉を知っている人の割合

全体で見ると、64.5%の人が「よく知っている」・「まあまあ知っている」と答えていた。年代別で見ると、30代では67.5%、40代では66.7%、50代では62.8%、60代では60.5%と年代が低いほど知っている人が多かった。

大和町食生活改善推進員の状況

大和町食生活改善推進員数

年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
人数	100名	111名	96名	82名

食生活改善推進員養成講座の開催

年度	平成14年度	平成17年度	平成20年度
人数	16名	24名	8名

大和町の5地区全地区に食生活改善推進員がおり活動しているが、行政区単位となると町内59行政区のうち、食生活改善推進員は35行政区にあり活動している。活動の充実のためにも、食生活改善推進員がいない24行政区に呼びかけ充足を図っていく必要がある。

また、現在食育ボランティアは食生活改善推進員のみで活動しているが、今後は様々な立場の方が食育を推進していくことが必要である。

食育ボランティアとは

地域における食育を地域の実情に応じた活動を展開することにより推進し、食への関心を喚起して、食の安全な選び方、組み合わせ方を判断する力と習慣の習得を促すことにより、健全で安心できる食生活の実践を促進するためのボランティアです。